

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 1 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200338		
法人名	社会福祉法人IGL学園福祉会		
事業所名	IGLグループホーム西風新都		
所在地	〒731-3167 広島市安佐南区大塚西2丁目5-8 (電話) 082-848-3313 (代表) 082-848-3373 (直通)		
自己評価作成日	令和5年11月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200338-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200338-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年12月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

IGLグループホーム西風新都では、IGLの理念に立ち利用者が望まれるその人らしい生活を支援しています。スタッフは一人ひとりが「出来ること、望まれていること」を把握し思いが繋がるケアを心がけています。「認知症対応型」の施設としての役割を意識し利用者のペースを守っていくことを念頭に置いています。感染防止、感染予防のため利用者のご家族の関係が希薄にならないように写真やメール、アイパット面会も行っています。今後もご家族に安心して頂けるように様子を伝えていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念を基本とし、本人の思いや望むこと、できることをしっかり捉え、一人ひとりの特徴を把握し利用者本位に検討している。様々なことを経験してこられた人生の先輩として利用者の人格や尊厳を尊重し、言葉遣いや失礼のない対応を常に意識し実践している。コロナ禍で外出など難しい状況が続くが、下肢筋力が落ちないように歩行訓練をケアプランにとり入れるなど、利用者個々に今できていることや持っている能力が継続でき、その方にとって大切なことは何かを職員で話し合い、その人らしい生活が送られるような支援に努めている。法人研修や勉強会を計画的に実施し、個人の資質の向上に取り組んでいる。地域との交流もコロナ禍以前では夏祭りなど行事への参加や幼稚園や中学校との交流行事など様々な関わりが定着しており、災害時協力体制の締結や近隣地域事業所との交流など地域との密接な関わりを強く意識し取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念「隣人愛」を基に、毎日朝の申し送りで唱和している。「コンセプトブック」に目を通したり、ミーティング等で理念を振り返りながら理解を深めている。4月の施設内研修では「職業倫理」の勉強会も行っている。	「隣人愛」という法人理念のもと、もてなしの心、チームワーク、プロ意識を持ち取り組んでいる。利用者にとって大切なことは何かを話し合い利用者本位に検討している。職員は所持するコンセプトブックを朝礼で読むことや、毎月職員ミーティングで振り返り理念の理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症や最近ではインフルエンザの流行により地域の行事には参加出来ていない。地域の花火大会を施設ベランダから楽しんだ。地域の夏祭りへの参加声掛けを頂いたが参加出来ていない。季節ごと地域のドライブに出かけていつもと違う時間を感じて頂いた。	町内会に加入し、回覧板で地域情報を収集している。地域の方から夏祭りに声を掛けてもらうなど日常の付き合いがあり、とんど焼きへの参加や幼稚園との交流、職場体験、中学生の和太鼓演奏披露、近隣の他法人事業所との交流活動など、地域と密接に繋がりを持ち関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	感染症予防対策の為今までの様に地域へ出向くことが出来なかったが、地域包括支援センターの「認知症の人とその家族にやさしいまちづくり」に参加させて頂き認知症に関する書籍紹介のPOPを作成し展示して頂いた。書籍に目を通すことができ職員も勉強になった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月ごとに行ったが新型コロナウイルス感染もあり施設内での話し合い報告のときがあった。感染症が落ちついた後は他施設の運営推進会議にも沢山参加させて頂いた。認知症施設での感染症対策や対応も勉強させて頂いた。	併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同にて実施している。コロナ禍のため事業所内での開催を継続し、各関係者に議事録送付にて書面での確認を行い意見をもらえるように努めている。他法人事業所と運営推進会議の相互参加を実施しており、意見交換や情報共有を行っている。	運営推進会議の検討内容などを家族への周知が望まれます。議事録を全家族へ送付し、事業所の取り組みへの理解が深まり、家族の意見や意向がより多くサービスに反映されていくことを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市に自施設で行っている運営推進会議録を送付し、施設運営状況の情報提供を行っている。新型コロナウイルス感染症対策下ではあるが、市町の研修(認知症リーダー研修など)には積極的に参加し、スタッフの質の向上に努めている。	介護や運営上の理解や解釈など随時高齢福祉課に確認している。市主催の研修に積極的に参加を意識し、認知症リーダー研修受講などサービス向上に取り組んでいる。地域包括支援センターより公民館での体験事業や認知症サポーター研修の案内があるなど日頃より連携し取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会を行い、基本知識の理解と、リスクを鑑みた観点での対応は、ご家族に相談報告を行い、十分に説明・理解を得るようにし、何よりも利用者へのかかわり方を工夫し、身体拘束をしないケアの実践を意識している。勉強会後職員は意見、感想を書いて提出している。</p>	<p>法人の身体拘束廃止委員会に参加する他、事業所単独でも委員会を設け、常日頃の取り組みや事案を話し合い検討している。年3回勉強会を計画し、勉強会后職員は意見や感想を提出しそれらを議事録としてまとめ全員で確認、共有し身体拘束をしないケアの理解を深め実践に繋げている。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止法に関しては、定期的に勉強会を開催している。I G L全体研修・施設内研修での虐待防止に関する資料を必ず読み合わせを行い、スタッフ各人の感じたことを文書提出している。日ごろのケアの中でのグレーゾーンについて意識し、些細なことも相談・周知・ご家族への報告を行っている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>認知症高齢者の人権を守るケアを、自分たちが実践するために、必要な考え方や倫理観についての勉強会をしている。人権擁護に関する制度(自立支援事業・成年後見制度)も勉強会をしている。尊厳が守られているのかを問いながらケアを行っている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>「運営規定」「重要事項説明書」に基づき契約時の説明を行っている。電話やメールを使い、疑問・要望には即返答するようにしている。たくさんご家族に話してもらおう事、聞きやすい雰囲気を作り、即対応することをモットーにしている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族に対しては、契約・面談・電話を受けた時には、「聞きたいことはありませんか？」と常に一言説明を加えるようにし、ご家族が言葉を発しやすい雰囲気を作るなどを心掛けている。質問の内容に対しては、必ず対応し結果を報告している。それぞれのご家族で不安なこと聞きたい事が違うので新たな意見として伺うこともある。</p>	<p>家族へは面会など来所時や連絡時に意見を聞き、必ず「聞きたいことはありませんか」と尋ね、思いを表出しやすいよう工夫している。コロナ禍であるがタブレットのリモート面会、週1回の面会実施など運営に反映している。利用者へは日頃の関わりから確認し希望の実現に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のケアミーティングやユニット会議の際に意見を求め・改善策を提示するようにしている。職員の面接を適宜行うことで、運営に関する意見要望を引き出すようにしている。何よりも、意見を聞きやすい言いやすい雰囲気づくりにしていきたい。	毎月、ケアミーティングやユニット会議にて意見や思いを表出できる機会とし、その他、定期的な面談や管理者、リーダーに随時相談ができ思いや意向の確認を行っている。業務の改善や役割の変更、資格挑戦や希望する研修への受講などサポートし、働きやすい体制作りがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月1回のリーダー会議を行い、職員一人ひとりの勤務状況や問題点などを話し合っている。職員個人の事情に配慮したり、それぞれの能力を發揮して仕事ができる様に努めている。職員同士の関係性を良好に保てるように介入することもある。向上心・やりがいのある職場作りを意識して関わるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新任職員については、指導者を決めているが、管理者と一体になって「みんなで育てる」をモットーに情報交換を行いながら、できるを伸ばす指導を心がけている。職員の力量に合わせた指導方法を、指導者が模索することを奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前は、他施設とのバレーボール大会や夏祭りでの交流、勉強会を行っていたが新型コロナウイルス感染後交流は行っていない。運営推進会議時での交流、資料のやり取りで情報を頂き、勉強になっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規ご利用開始の際には本人面談とご家族からの情報を細かく聞き取り、利用者がさみしさや、取り残された気分や、不安にならないことを目標にし、親切で優しい対応、本人のペースに沿った生活、自分らしく過ごせる雰囲気作りを最優先している。積極的にご家族とも情報交換を行い協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始時に、ご家族の心境を把握し、困惑している所、不安・不明確な点を解決するとともに、十分に話を聞き、利用者との関係性を理解することで、何でも相談でき、言える関係を作り、信頼関係を結んでいる。ご家族の話をご家族の話を遮らないで聞くことを徹底して行い、気持ちを感じ、伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始、初期に必要なサービスは様々であるが、グループホーム入居では、他のサービス利用では、医療に関する事、福祉用具に関する事などがあげられる。初期の段階ではできる限り情報収集に努めアセスメントを行い健康状態・ADLの維持向上など、本人・ご家族の希望されるサービスに対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御利用者を、1人の生活者としてとらえ、日々の暮らしが利用者の暮らしとして時間が流れるように、ともに日常生活の様々な事(洗濯・掃除・洗い物・散歩・衣類のかたづけ・趣味の時間)を行い、満足感が味わえる環境にする。介護する人ではなく、そばにいて安心できる人の関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員はご家族には成り代われない。本人が家族を思う気持ちやご家族が利用者を思う気持ちは当然のこと。ケアミーティングでご家族の気持ちに寄り添う事も話し合いをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	誰にとっても、大切な場所や人がいる。既に存在しなくなっている場合もあるが心の支えにされていたり、日常の活力、忘れられない思い出になっている。手紙や贈り物が届いた場合には、電話で話をして頂いたり会話が出来ない方には電話で様子を伝えている。写真を送ったり居室には家族写真を飾っている。	ライフスタイルヒストリーという独自様式にて利用者の生活を詳しく把握し、誰にとっても大切な場所や人がいることを念頭に個人を知り理解することに努めている。知人の面会や家族協力による外出支援、馴染みに関連する新聞記事やニュースを伝え思い出を回想できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロア内での利用者の関係作りは日々行っている。会話が弾み楽しそうに笑いが起きる場面や、唱歌や童謡を誰ともなく歌われ大合唱になることもある。スタッフが、コミュニケーションを図りながら雰囲気作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も挨拶状を送ったり、写真を送ったりしている。ご家族からも現状の経過、電話等があり、施設を離れても関係作りは大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの人生を、出来るだけ本人やご家族から教えてもらい、本人の希望や意向を把握するようにしている。本人の考え方や、経歴から今どのように過ごしたいのかを想像して、チームで共有し、ケアに活かすようにしている。これまでの生活歴や本人の会話からの情報を話し合うようにしている。	本人や家族に確認し、居室担当者が意識的に関わりを持ち利用者の思いや意向を深く掘り下げ把握に努めている。これまでの生活歴や会話の内容など介護記録や申し送りノートにて共有し、ケアミーティングで話し合っている。本人の思いや暮らし方を大切にしたい支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフスタイルヒストリーをもとに、本人・ご家族の若い頃の写真や、普段のお話から生活歴を知り、本人と会話の中で経歴やそれに対する本人の感情を知るとともに、職員同士で情報共有を行っている。ご家族にも聞きながら本人を知っていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの体調やADL、嗜好や生活習慣を把握して、その人らしくマイペースに生活を送っていただけるように対応している。ご家族からも情報をいただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者のニーズに合わせて、本人・ご家族・スタッフ間で意見交換・情報交換を行いながら、利用者らしい生活を支援できるように介護計画を作成している。毎月担当職員がケアプランのモニタリングを行いケアの方向性を示し共有している。</p>	<p>個々の今できることや持っている能力が継続でき、その人らしい生活が送れることを重要視し、本人、家族希望をもとにケアミーティングで全員で話し合い、計画作成者がまとめ作成している。毎月担当職員が行うモニタリングで振り返り、医師や訪問看護と連携し計画に反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録には、生活の様子や、体調などが把握できるように記録している。変化があった場合や介護方法の変更などは、記録で共有できるようにしている。チームで共通の記録を行い、統一したケアを心がけている。毎月、計画の実践を評価しモニタリングを共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>施設生活の中2ユニット間の行き来は基本自由に行っている。好きな歌が聞こえれば自由に動いて頂いて良いことにしている。そのためにはスタッフ間で情報の共有をきちんとすることにしている。また、体調不良の時は希望の食事ができる様に職員がつくることもある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>感染症対策に重点をおいていることもあり、現在は新緑ドライブ・花見・気分転換ドライブ・散歩では施設外で季節を感じリラックスできるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ選びは、利用者の意思を尊重して行っている。18名の利用者で、5か所のクリニックにかかっておられる。往診での診療が多いが、緊急時の連絡は取れるようになっており、体調不良時の相談に応じてもらっている。</p>	<p>利用開始時以前のかかりつけ医選択を可能としている。法人母体クリニックが協力医である。それぞれに定期的な訪問診療があり、緊急時の連絡体制も整備されている。必要により専門科への受診も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護を受けている。日々のバイタル測定は介護職員が行うことが多い。新型コロナウイルス感染症蔓延時から酸素濃度測定も行っている。介護と看護の連携により、皮膚剥離の処置・ポジショニングなどが行っている。健康相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調変化時の病院連絡・ご家族対応を行っている。入院時の情報提供、病院のソーシャルワーカーと連携し退院日の決定・状態確認・受け入れ準備を行っている。ご家族とともに、情報共有をした上で早期退院できるようにしている。その際、ご家族の病状理解への助言や退院後の施設生活のイメージ、不安緩和に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期における対応の希望や考えをご家族から情報を早めに得るようにしている。普段のご家族との関係をより良いものにし、ご家族の希望を知り当施設でできる介護を十分に説明理解を得るように心がけている。主治医の往診時意見も頂いている。	利用開始時に重度化対応、看取り介護についての同意書を説明し、事業所でできる範囲について理解と同意を得ている。重度化した場合改めて家族や主治医、訪問看護との連携を含め話し合い方針を共有し看取り計画を作成している。コロナ禍以前では家族も宿泊ができ支援が行えていた。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	看護師により、急変、誤嚥窒息、転倒転落における対応の勉強会をしている。参加できない場合には、読み合わせや、感想を述べ合うことで理解を深めている。緊急時の酸素ポンベの使い方のレクチャーを行っている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との「災害時協力体制」を締結し協力体制を整えている。消防訓練は年2回行っている。災害時の備品・食料の点検や、連絡網の確認などを定期的に行っている。	年2回定期的に避難訓練を行っている。夜間想定や消防署と協力し、はしご車での訓練など実施している。地域との災害時協力体制を締結し、自治会長や地域住民と集まり協力の協定を策定している。備蓄や避難経路の確認、緊急連絡網も見やすく掲示するなど有事に備え整備されている。	



自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者は、名字に○○さんと呼び、あだ名やちゃんづけでは呼ばないように徹底している。排泄介助時には、ドアを必ず閉めておく。入室時にはノック、本人に断って入室などを行う。不安な訴えや記憶錯誤などにも否定や指摘ではなく、傾聴の姿勢を常に持ち優しく親切に対応するようにして尊厳を傷つけない対応をしている。	一人ひとりの人格や尊厳を尊重し、様々なことを経験してこられた人生の先輩として失礼のない対応を常に意識している。認知症の勉強会は職員が講師役を務め実施している。利用者主体を基本とし、不安な訴えなど否定をせず話を傾聴すること、本人が答えやすい聞き方を意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ささやかな事であっても、ご本人の気持ちや希望の問いかけに傾聴している。職員主導で時間が流れないように、配慮している。日々のケアの中で、利用者の希望の表出ができる様な声かけについて、ミーティングで話し合いを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者全員の様子を把握しながら、一人ひとりとの関わりを持つようにしている。しっかり話を聞き本人が何を話したいかを理解して誘導していく。入浴は個別対応となるので、ゆっくりと話を聞いている。業務優先ではなく、手を止めて利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容・整髪時にお化粧をされる方もおられるので対応している。理美容サービスを入れ、白髪染めやパーマを定期的に行っている。また、衣類の選択は本人の意向を尊重するようにしている。髭剃りも毎日行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、人にとって最も身近な楽しみと云えるので、食事の前には利用者にメニューを読んで頂いている。また、準備や片付けに関わる事で役割を果たしたり、役に立つという実感を持てるチャンスである。洗いや物をお願いすることもあ。季節や行事に応じた食事、誕生日のケーキ、季節の果物などを楽しむようにしている。	施設内の厨房より料理が届き、ご飯や汁物、サラダを作り提供している。当日の献立をボードに大きく記載し分かり易くしている。季節の旬の食材の使用や行事食、誕生日のケーキなど楽しみとなっている。コロナ禍以前ではおやつクラブとしてホットケーキを作ったり、外食もしていた。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェックは全員行っている。毎月体重測定、細かな摂取量の把握、水分摂取量の把握も行っている。貧血・栄養状態を見ながら、栄養補助食品、嚥下障害に対応した食事内容などを工夫し、楽しむ食事、栄養満点の食事を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔衛生・ケアを行い、問題が生じた場合には歯科に相談を行っている。義歯管理や口腔内の観察を習慣的に行っている。口臭がきつい方は、主治医に相談したこともある。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は一人ひとりチェックを行っている。排泄行為時の転倒予防や安全確保には十分に配慮し環境を整えている。その人の排泄パターンを知り、排泄習慣を把握し、自立支援につながるような声掛けを心掛けている。	排泄チェック表をもとに個人の排泄状況やパターンを把握し、その方に合わせた誘導や介助を行っている。各居室にトイレがあり、トイレに行きやすい環境となっていることで排泄の自立支援に繋がっている。リハビリパンツから布パンツに移行ができた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便習慣を知り、体を動かすことや、水分・乳製品の摂取・食事の工夫などを行っている。看護師による腸蠕動確認や直腸内の便の確認を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	現在は皆様普通の個浴を利用されている。入浴は最高のリラックスタイムになり、職員とも個別でのかかわりをゆっくり持てる時間にもなっている。入浴に拒否的な方には、なじみの関係作りや複数人でのかかわりの持ち方などの工夫をしている。	一人当たり週2～3回の入浴機会とし午後から行っている。服の着脱も直ぐに介助せず自身でできることを優先し、職員とも1対1でゆっくり話ができる時間として支援している。入りたくない時は時間やタイミングを変更し柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	一人ひとりの特徴の年齢・体調・ 精神状態に合わせて、休息を取 ってもらうようにしている。夜間 の覚醒には、お付き合いをして 、気持ちよく再入眠できるように 関わっている。睡眠パターンを 知り、共有しケアに活かしてい る。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内服薬の内容、使用目的などを共 有するようにしている。不穏や 不安には薬に頼るだけでなく、 対応を検討している。浮腫や高 血圧、徐脈など主治医と連絡を 取り情報提供しながら内服薬の コントロールを行い、体調を整 えている。服薬ミスが無いよう に、ルール化して確認を怠らな い介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の生活リズムを整え、役割 を持ってもらうようにしてい る。(たたみ物、食器洗い) 誕 生会、花見ドライブ、息抜き散 歩・ドライブ、敬老会などお楽 しみはその日だけでなく準備段 階から、利用者を巻き込んでワ クワクしてもらえるように工夫 をしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日常的な外出は、感染予防の為 では難しいが、敷地内で戸外 を歩いたりして気分転換を図 っている。感染予防マニュアル に沿って外出支援を行っている。	コロナ禍であり主だった外出は 控えることを継続しているが、 敷地内の散歩や敷地玄関前の 土手スペースに花植えをして 花を見に楽しめるようにしてい る。季節ごとに花見や新緑、 紅葉狩りなどドライブの実施を している。以前は買い物ツア ーや家族が外出に連れていく など行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	現在は感染予防のため自由に 買い物に行けていないが、短 時間からの外出ができる様 になれば自分で買い物をする 事の支援をしていきたい。現 在施設内の自動販売機で飲み 物を購入することはされている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や大切な人からの手紙、電話、などがあれば本人と話をしている。会話が難しい方はアイパットを使って本人と会っておられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るくなったらカーテンを開け、ご自身で天気を確認できるようにしている。季節の花を飾ることで季節感を出している。カウンターを使ってお茶をしたり、ソファを置いて休憩できるようにしている。ベランダのお花がいつも見えるので散歩の途中でも話題にされている。	ユニット同士が繋がる造りにて日常的に自由に行き来でき、歩行訓練や利用者同士の交流が行えている。キッチンを囲む形のカウンターでは利用者がおやつを食べたりしている。壁面ボードに利用者とする季節の作品が掲示され、ベランダの花植えやリビング内に季節の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間での、テーブルの配置で、仲のいい方が談笑できるように、また、トラブルが発生しにくくなるように工夫をしている。カウンターやソファなど遠慮なく利用してもらえるように声をかけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は持ち込んで頂き慣れ親しんだものを使ってもらっている。ご家族の写真などを置いたり、自分の習字などの作品を飾っている方もある。転倒リスクが最低限となり、本人が安心できる空間を提供できる様にしている。	居室はベッドと洗面台、トイレが備え付けである。馴染みの物など自由に持参可能であり、使い慣れた布団の使用や仏壇を持参し毎朝の参拝する習慣を継続できた例がある。利用開始前の自宅の環境を確認し、利用者が安全に過ごし易い配置やトイレまでの動線など検討し環境整備をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、ベットや家具・椅子などのレイアウトは自由に決める事が出来るようにしてある。利用者の身体状況に応じた快適な空間作りを行っている。居室内では、自分なりに自由に過ごしていただくようにしている。		

V アウトカム項目(エーデルワイス) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	I G Lの理念は、「隣人愛」、当グループホームの理念は「お一人お一人の思いを尊重し個人の能力に応じてその人らしい生活が送れるように支援します。」です。I G L全体・事業所内での職業倫理研修、朝礼でのコンセプトブックの読み合わせ、ケアミーティングなどで理解を深める働きかけを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の行事への積極的な参加、職場体験、夏祭りの開催などで地域交流を行ってきたが、新型コロナウイルス感染対策のためにすべて延期・中止となる。感染対応を最優先して、電話での連絡などを取っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に対しての、認知症理解・支援をお伝えする機会が、コロナ感染対策最優先のため、開催できず皆無であった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、近隣施設・地域の民生委員・関連している訪問看護・地域の社協・ご家族・利用者を対象に開催していたが、新型コロナウイルス感染対策が最優先となり、施設内開催となっている。会議記録をファックスで送信して共有した。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市に自施設で行っている運営推進会議録を送付し、施設運営状況の情報提供を行っている。コロナ感染対策下ではあるが、市町の研修（認知症リーダー研修など）には積極的に参加し、スタッフの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回、身体拘束についての勉強会を行い、基本知識の理解と、様々な事象について身体拘束の観点での考察を行っている。リスクを鑑みた観点での対応は、家族に相談報告を行い、十分に説明・理解を得るようにし、何よりも入居者へのかかわり方の工夫し、身体拘束しないケアの実践を意識している。玄関施錠はしていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止法に関しては、定期的に勉強会を開催している。I G L全体研修・施設内研修での虐待防止に関する資料を必ず読み合わせを行い、スタッフ各人の感じたことを文書提出している。日ごろのケアの中でのグレーゾーンについて意識し、些細なことも相談・周知・家族への報告を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	認知症高齢者の人権を守るケアを、自分たちが実践するために、必要な考え方や倫理観について学ぶ機会を設けている。人権擁護に関する制度（自立支援事業・成年後見制度）について学ぶとともに、必要に応じ社会福祉士に相談を行っている。入居者一人ひとりの尊厳とは何か？尊厳が守られているのか？を問いながらケアを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	「運営規定」「重要事項説明書」に基づき契約時の説明を行っている。電話やメールを使い、疑問・要望には即返答するようにしているとともに、感染対策のために新たに加わった制限なども、理解して頂けるように説明を行っている。たくさんご家族に話してもらおう事、聞きやすい雰囲気を作り、即対応することをモットーにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族に対しては、契約・面談・電話を受けた時には、「聞きたいことはありませんか？」と常に一言説明を加えるようにし、家族が言葉を発しやすい雰囲気を作るなどを心掛けている。意見の内容に対しては、必ず対応し結果を報告している。面会ができない分、家族と入居者のビデオレターやズームでの面会、離れた場所で姿を見ていただくなどの取り組みを行い生活の様子を伝えている。		



自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のケアミーティングやユニット会議の際に意見を求め・改善策を提示するようにしている。職員の面接を適宜行うことで、運営に関する意見要望を引き出すようにしている。何よりも、平素の人間関係を大切にしておかかわっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月2回のリーダー会議を行い、職員一人一人の勤務状況や問題点を話し合っている。職員個人の事情に配慮したり、それぞれの能力を發揮して仕事ができる様に努めている。職員同士の関係性を良好に保てるように介入することもある。向上心・やりがいのある職場作りを意識して関わっているようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新任職員については、指導者を決めているが、管理者と一体になって「みんなで育てる」をモットーに情報交換を行いながら、できるを伸ばす指導を心がけている。職員の力量に合わせた指導方法を、指導者が模索することを奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染症の対策のため、同業者との情報交換・交流は直接には不可能な状況である。必要に応じて、メールや電話でのやり取りとなっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規ご利用開始の際には、人的物的環境に慣れていただく事、入居者がさみしさや、取り残された気分や、不安にならないことを目標にし、親切で優しい対応、本人のペースに沿った生活、自分らしく過ごせる雰囲気作りを最優先している。積極的に御家族とも情報交換を行い協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始時に、御家族の心境を把握し、困惑している所、不安・不明確な点を解決するとともに、十分に話を聞き、入居者との関係性を理解することで、何でも相談でき、言える関係を作り、信頼関係を結ぶ。家族の話を選らないで聞くことを徹底して行い、気持ちを感じ、伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始、初期に必要なサービスは様々であるが、グループホーム入居では、他のサービス利用では、医療に関する事、福祉用具に関する事などがあげられる。初期の段階ではできる限り情報収集に努めアセスメントを行い健康状態・ADLの維持向上など、本人・ご家族の希望されるサービスに対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御利用者も、1人の生活者としてとらえ、日々の暮らしが入居者の暮らしとして時間が流れるように、ともに日常生活の様々な事(洗濯・掃除・洗い物・散歩・衣類のかたづけ・趣味の時間)を行って、満足感が味わえる環境にする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族には成り代われない。コロナ下ではあるが、御家族は「会えないので顔を忘れてしまうのではないかと不安を口にされることが多い。ご家族の話題での会話、写真、ビデオレター、遠目の面会などを取り入れ家族との連絡を密にし、入居者との関係性が希薄にならないようにする。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	誰にとっても、大切な場所や人がいる。既に存在しなくなっている場合もある。コロナ感染対策の為に、面会できない状況が続く中、少しでも家族やなじみの場所との関係性が続くように、工夫をしている。手紙や贈り物が届いた場合には、電話で会話をするなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロア内での利用者様の関係作りは日々行っている。会話が弾み楽しそうに笑いが起きる場面や、唱歌や童謡を誰ともなく歌われ大合唱になることもある。スタッフが、コミュニケーションを図りながら雰囲気作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も挨拶状を送ったり、写真を送ったりしている。家族からも現状の経過、電話等があり、施設を離れても関係作りは大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人の人生を、出来るだけご本人御家族から教えてもらい、本人の希望や意向を把握するようにしている。ご本人の考え方や、経歴から今どのように過ごしたいのかを想像して、チームで共有し、ケアに生かすようにする。職員ではなく、本人だったらどう考えるかを問合合うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフスタイルヒストリーをもとに、本人・家族の若い頃の写真や、普段のお話から生活歴を知り、ご本人と会話の中で経歴やそれに対する本人の感情を知るとともに、職員同士で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の体調やADL、嗜好や生活習慣を把握して、その人らしくマイペースでの生活を送っていただけるように対応する。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者のニーズに合わせて、本人・家族・スタッフ間で意見交換・情報交換を行いながら、利用者らしい生活を支援できるように介護計画を作成している。毎月担当職員がケアプランのモニタリングを行いケアの方向性を示し共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には、生活の様子や、体調などが把握できるように記録している。変化があった場合や介護方法の変更などは、記録で共有できるようにしている。チームで共通の記録を行い、統一したケアを心がけている。毎月、計画の実践を評価しモニタリングを共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	感染対策が最優先での、施設生活の中2ユニット間の行き来は行えている。家族支援が一番難しくなっている現状を踏まえて面会方法の工夫や、感染対策下での外出・会食など取り組んでいる		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナ感染症対策を最優先として施設サービスを行わざるを得ない状況であり、地域資源との協働は難しい状況であるが、新緑ドライブ・花見・気分転換ドライブ・散歩では施設外で季節を感じリラックスできるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ選びは、御利用者の意思を尊重して行っている。18名の利用者で、6か所のクリニックにかかっておられる。往診での診療が多いが、緊急時の連絡は取れるようになっており、体調不良時の相談に応じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護を受けている。日々のバイタル測定は介護職員が行うことが多い。新型コロナウイルス感染症の蔓延もあり酸素濃度測定も行っている。介護と看護の連携により、皮膚剥離の処置・ポジショニングなどが行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調変化時の病院連絡・ご家族対応を行っている。入院時の情報提供、病院のソーシャルワーカーと連携し退院日の決定・状態確認・受け入れ準備を行っている。家族とともに、情報共有をした上で早期退院できるようにしている。その際、家族の病状理解への助言や退院後の施設生活のイメージ、不安緩和に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期における対応の希望や考えを御家族から情報を早めに得るようにしている。普段の御家族との関係をより良いものにし、家族の希望を知り当施設でできる介護を十分に説明理解を得るように心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、誤嚥窒息、転倒転落に加え新型コロナウイルス感染症感染対策などの研修を開催している。参加できない場合には、読み合わせや、感想を述べ合うことで理解を深めている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との「災害時協力体制」を締結し協力体制を整えている。消防訓練は年2回行っている。災害時の備品・食料の点検や、連絡網の確認などを定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者は、名字に〇〇さんと呼ぶ。あだ名やちゃんづけでは呼ばないように徹底する。排泄介助時には、ドアを必ず閉めておく。入室時にはノック、本人に断って入室するなどを行う。不安な訴えや記憶錯誤などにも否定や指摘ではなく、傾聴の姿勢を常に持ち優しく親切に対応するようにして尊厳を傷つけない対応をする		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ささやかな事であっても、ご本人の気持ちや希望を表出できるような問いかけや関係の構築をするように注意している。職員主導で時間が流れないように、配慮する。日々のケアの中で、利用者の希望の表出ができる様な声かけについて、ミーティングで話し合いを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者全員の様子を把握しながら、一人一人との関わりを持つようにしている。しっかり話を聞いたり、楽しい会話をしたりすることで、その人らしさが出せるものである。入浴は個別対応となるので、ゆっくりと話を聞いている。業務優先ではなく、手を止めて利用者の言葉に耳を傾けるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容・整髪時にお化粧をされる方もおられるので対応している。理美容サービスを入れ、白髪染めやパーマを定期的に行っている。また、衣類の選択は本人の意向を尊重するようにしている。髭剃りも毎日行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、人にとって最も身近な楽しみと言える。また、準備や片付けに関わるのも役割を果たしたり、役に立つという実感を持てるチャンスであるので、毎回茶わんふきなどを利用者と一緒に行うようにしている。季節や行事に応じた食事、誕生日のケーキ、季節の果物などを楽しむようにしている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事量のチェックは全員行っている。必 要に応じて、体重測定、細かな摂取量の 把握、水分摂取量把握を行っている。貧 血・栄養状態を見ながら、栄養補助食 品、嚥下障害に対応した食事内容など を工夫し、楽しむ食事、栄養満点の食事 を用意している		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔衛生・ケアを行い、問題が生 じた場合には歯科に相談を行っている。 義歯管理や口腔内の観察を習慣的に行っ ている。口臭がきつい方は、主治医に相 談したこともある。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄は一人一人チェックを行っている。 排泄行為時の転倒予防や安全確保には十 分に配慮し環境を整えている。介護5の 方も、ポータブルトイレを使用し座っ ての排便を行っている。排泄パターンを知 り、排泄行動の転倒リスクを低減したこ とで、リハパンから布パンツに移行でき たケースがあった。排泄習慣を把握し、 自立支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便習慣を知り、体を動かすこと や、水分・乳製品の摂取・食事の工夫な どを行っている。看護師による腸蠕動確 認や直腸内の便の確認を行い対応してい る。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	状態により、個浴・機械浴を選択してい る。入浴は最高のリラックスタイムにな る、職員とも個別でのかかわりをゆっく り持てる時間にもなっている。入浴に拒 否的な方には、なじみの関係作りや複数 人でのかかわりの持ち方などの工夫をし ている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の年齢・体調・精神状態に合わせて、休息を取ってもらうようにしている。夜間の覚醒には、お付き合いをし、気持ちよく再入眠できるように関わっている。睡眠パターンを知り、共有しケアに生かしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の内容、使用目的などを共有するようにしている。不穏や不安には薬に頼るだけでなく、対応を検討する。浮腫や高血圧、徐脈など主治医と連絡を取り情報提供しながら内服薬のコントロールを行い、体調を整える。服薬ミスが無いように、ルール化して確認を怠らない介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活リズムを整え、役割を持ってもらうようにしている。(洗濯もの、食器など) 誕生会、花見ドライブ、息抜き散歩・ドライブ、敬老会などお楽しみはその日だけでなく準備段階から、利用者を巻き込んでワクワクしてもら得るよう工夫をしている		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は、新型コロナ感染対策下では難しいが、敷地内で戸外を歩いたりして気分転換を図っている		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は、新型コロナ感染対策のため、御家族との外出、職員との買い物などは一切行っていない。ワクチン接種も済み、コロナ対策が緩和されたら行いたいと思う		



自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	新型コロナ感染対策のため、面会が一切できず、外出もままならない日々である。電話やビデオレター、などを使い御家族との交流を行っている。差し入れを持ってこられた時に、離れた距離で姿を見ていただくなども行って、顔を見てもらう機会を作っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るくなったらカーテンを開け、ご自身で天気が確認できるようにしている。午前中の日差しを使って日向ぼっこを取り入れている。季節の花（アジサイ・彼岸花・カーネーション）を飾ることで季節感を出している。カウンターを使ってお茶をしたり、ソファを置いて休憩できるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間での、テーブルの配置で、仲のいい方が談笑できるように、また、トラブルが発生しにくくなるように工夫をしている。カウンターやソファなど遠慮なく利用してもらえるように声をかけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は持ち込んで頂き慣れ親しんだものを使ってもらっている。家族の写真などを置いたり、自分の習字などの作品を飾っている方もある。転倒リスクが最低限となり、ご本人が安心できる空間を提供できる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、ベットや家具・椅子などのレイアウトは自由に決める事が出来るようにしてある。利用者の身体状況に応じた快適な空間作りを行う。居室内では、自分なりに自由に過ごしていただくようにしている。		

V アウトカム項目(アルペンローゼ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 IGLグループホーム西風新都

作成日 令和6年2月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議で出た話や意見を議事録としてまとめていなかった。	運営会議後に会議での内容をまとめた議事録を作る。	会議出席者で順番に議事録の作成をする。	1年間
2	5	身体拘束廃止委員会の会議録を全員に周知できているかの確認ができていない。	身体拘束の勉強会と身体拘束廃止委員会の会議の内容を全員で共有する。	勉強会は各自意見・感想を提出しているの で、会議録は回覧してサインをもらう。	6カ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。